

# 令和5年度からの中学生年代の活動について

新潟県バレーボール協会  
新潟県中体連バレーボール専門部

これまでに公表されたスポーツ庁、県教委、県中体連からの資料と、1月31日の県スポ協主催の説明会から、来年度の中学生年代のバレーボール活動について留意点と疑問点をまとめます

- ⚠ は、正しい認識がされていない場合が多そうので、注意が必要な点  
 ? は、まだはっきりしないので、県教委や中体連に回答を求めていく点  
 となっています  
 疑問点については、回答され次第「新潟県バレーボール協会HP」で公表していきます

## ★地域移行に向けてのスケジュール

	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)
学校単位の部活動 または 合同チーム	平日の活動あり、土日の活動なし 平日も縮小の方向			達成目標先送
地域の クラブチーム	「改革集中期間」から「改革推進期間」に変更			
部活動・ヤングクラブとの二重登録は不可 登録・承認で中体連主催大会参加可能				
ヤングクラブ チーム	部活動との二重登録は可能 独自の全国大会（ネット・ボール一般ルール）			現行の通り？

- ⚠ R5～R7の3年間で、休日の活動を地域移行 R8以降のスケジュールは3年間の状況を見て改めて決定  
 ? 中体連主催の大会はいつまで存続するのか？ その後は各競技団体が全国大会を主催する形になるのか？  
 ? 中学校部活動の土日の活動は、現行のガイドラインで続けてもよいのか？  
 また、その判断は学校に任されるのか、市町村単位なのか、全県一律なのか？

## ★地域移行に向けてのグランドデザイン

### 新潟県バレーボール協会が目指す「育成年代クラブチームの在り方」

#### 持続可能かつ 誰もが選択可能であること

- ☆ 複数の年代カテゴリーを持つこと
- ☆ 自前の選手輸送手段をもつこと  
(できるだけ保護者の負担なく移動)
- ☆ 複数のスタッフで指導にあたること を目指す

#### 単一志向からの脱却

- ☆ バーンアウトの防止
- ☆ 競技会の参加のみに囚われない  
(練習のみの参加やマルチスポーツも許容)
- ☆ 競技者以外の競技を支える人材の育成も視野に入れる

#### 大会形式の再考

- ☆ 「トーナメント戦」より「リーグ戦」  
指導・普及と強化の両立を目指すならばリーグ戦が妥当、特に新人段階はリーグ戦にすべき

#### クラブ化の形態

- ① 中学校単独チームでのクラブ登録（※当面は認められない）
- ② ジュニアと合体した中学校単独チームでのクラブ登録
- ③ 複数の中学校チームでのクラブ登録
- ④ 複数の中学校とジュニアチームでのクラブ登録
- ⑤ 高校や大学など上のカテゴリーに付設してのクラブ登録
- ⑥ 総合型スポーツクラブの中の一科目としてのクラブ登録
- ⑦ 民間企業や行政が主体となるチームとしてのクラブ登録
- ⑧ その他

### 選ばれる種目・選ばれるシステムであるために

- ☆ コンプライアンス遵守（不適切な指導・不適切な選手勧誘の根絶、適正な会計処理）
- ☆ 保護者負担の軽減（協会や連盟が行政や企業と連携して、活動場所や活動費、交通手段の確保に努める）
- ☆ 生徒による選択の保障（チームの選択・大会参加の選択・活動レベルの選択）

「目先の結果、小手先の強化」より「10年後・20年後の根幹をなす強固な育成」

⚠ 来年度の中体連主催大会参加要件とは一致していない部分があります

県教委の資料

## 休日の部活動の地域移行後の中学生の運動機会

活動の種類（運営主体）		活動の目的	予想されるメリット・デメリット
民間のクラブチーム (アルビレックス、JSSなど)	◇選手コース ◇トップチーム	競技力向上	【メリット】 プロ指導者による専門的指導の下での競技力向上 【デメリット】 ・経済的負担大 ・時間的負担大 ・地域間格差大
	◇普及クラス	運動機会の確保	
地域のクラブチーム (スポ少、市町村協会、NPO、町道場など)		競技力向上 > 運動機会確保	【メリット】 地域での活動のため移動等の負担が比較的少ない 【デメリット】 ニーズに応える活動がない可能性
競技団体主催の活動	◇国体強化 ◇年代別強化	競技力向上	【メリット】 学校部活動から独立した強化活動が可能 【デメリット】 移動手段の確保が困難
	◇普及	人材発掘 > 競技力向上	【メリット】 中体連競技（種目）以外の普及が可能 【デメリット】 移動手段の確保が困難
学校以外の団体が運営し教育委員会が運営方針の決定等に関わる地域スポーツ活動 市町村教育委員会を中心に、運営主体（総合型地域SC、スポ少、市町村協会等）と連携した制度設計。兼職兼業による教員の指導可。		運動機会確保 > 競技力向上	県内4市で実施の国モデル事業等により検証中



中学校教員が指導できるのは  
**今のところ**  
この活動だけ



「学校以外の団体（スポ協、スポ少、市町村協会等）が運営し、教育委員会が運営方針の決定等に関わる地域スポーツ活動」

- 中学校教員が兼職兼業で指導に参加できるのはこの活動だけ
- 「1年以上の活動実績」なしでの特例が適用されるのはこの活動だけ
- 中学校部活動を母体として設立するクラブでは、中学校教員は指導にあたれない



上記の地域スポーツ活動は、全県の活動リストを学校を通じて発表するとあるが、そこに新規参入するにはどのような手続きが必要なのか？

- 新規地域クラブの設立のハードルを高くしすぎると、地域移行が進まないのではないか？
- 希望する教員の指導の場が上記地域スポーツ活動だけでは、地域移行が進まないのではないか？



教員が、各競技の協会員の場合が多くあるが、協会員として競技団体主催の活動やチームに携わることは兼職兼業の観点から望ましくないことなのか？  
もしそうなのであれば、各競技団体の活動は成立しないと思われる

## ★中体連主催の大会<地区予選（6月）県大会（7月）北信越大会（8月）全国大会（8月）>

◎ 中学校部活動

○ 協会登録

- ・JVAMRSによるチーム登録（カテゴリーは「中学校」）
- ・JVAMRSによる個人登録、個人登録料納入
- ・県協会へのチーム登録料納入

◎ 地域クラブ等

○ 地区中体連への大会参加認定申請→認定



認定されない場合もあり

○ 協会登録

- ・JVAMRSによるチーム登録（カテゴリーは「U14」または「ヤングクラブ」）
- ・JVAMRSによる個人登録、個人登録料納入
- ・県協会へのチーム登録料納入



JVAMRSのカテゴリーでは「中学校」と「ヤングクラブ」の二重登録は可、それ以外は不可

→ JVA国内事業部に確認済



中学校部活動、地域クラブいずれも人数が足りない場合は合同チームを編成することができる  
ただし、どのチームと合同チームを編成するかは、地区中体連が決定する

→ 今回改定



地域クラブ等の大会参加認定は、承認されない場合もある（条件を満たさないとき）  
その場合書類の不備が原因である場合を除いて再申請は認められない



大会参加認定書類は団体を調査するものであり、記載された選手名には追加や変更があり得る  
申請の手続きが早いことによる1年生の追加や、認定されなかった場合の部活動への転向等があり得るため



JVAMRSの個人登録については、地域クラブ等の大会参加認定結果確定後、所属がはっきりしてから行う



地域スポーツ団体等の参加の特例競技部細則に「中学校の部活動チームが大会に参加する場合、その中学校の生徒のみで編成された地域スポーツ団体の参加は認めない」とあるが、地域スポーツ団体が公募した上で結果的に同一校の生徒のみの編成になった場合は認定されないのか？

## ★中体連以外が主催の大会

### ◆ 新人大会<地区予選（11月）県大会（1月）北信越大会（3月）>

- 中体連主催大会より参加要件を緩和して行う予定（県選抜優勝大会をリニューアル）
- 「リーグ戦」形式を多く取り入れていく予定
- 大会ごとに参加料（大会運営費として）の徴収がある

### ◆ ヤングバレーボールクラブ大会<県予選（7月）全国大会（9月）県交流大会（12月）>

- JVAMRSで「ヤングクラブ」登録をしたチームが参加できる
- ボールサイズやネット高が「一般ルール」である
- 大会ごとに参加料（大会運営費として）の徴収がある

### ◆ 各種ローカル大会（市町村協会等主催の大会）

- 主催団体が定めた要項による
- 大会ごとに参加料（大会運営費として）の徴収がある

## 登録の категория と参加可能大会一覧表

大会	中体連主催大会	協会主催新人大会	ヤングクラブ大会	ローカル大会
「中学校」のみの登録	○ 参加できる	○ 参加できる	✕ 参加できない	△ 要項による
「中学校」と「ヤングクラブ」の二重登録	○ 中学校で参加 △ ヤングクラブは認定必要	○ どちらかで参加できる	○ ヤングクラブで参加できる	△ 要項による
「ヤングクラブ」のみの登録	△ 認定されれば参加できる	○ 参加できる	○ 参加できる	△ 要項による
「U14」登録	△ 認定されれば参加できる	○ 参加できる	✕ 参加できない	△ 要項による

- 中体連主催大会への地域スポーツクラブ等の参加に関する要件
- 中体連や中体連主催大会の今後の見通し
- 中学校における部活動の位置づけと地域移行 について

現状では

種目によるずれ

都道府県や市町村単位のずれ

学校単位のずれ

が大きい

今後も見直しを重ねながら進めていくとのこと

令和5年度の中体連主催大会に参加が認められそうなのは

◎1年以上の活動実績のあるヤングバレーボールクラブ

◎1年以上の活動実績のあるスポーツ少年団、ジュニアバレーボールチーム、総合型スポーツクラブ  
くらいか・・・



## ★部活動の地域移行に関する資料

スポーツ庁HP 「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」

新潟県HP 「休日の部活動の段階的な地域移行について」 新潟県スポーツ推進審議会資料

「新潟県部活動の在り方に係る方針（概要）（改訂版）」

## ★中体連主催大会への地域スポーツクラブ等の参加に関する資料

新潟県中学校体育連盟HP 「地域スポーツ団体大会参加に関するご案内」

- 認定基準
- 認定申請書（様式1・様式2）
- 申請の流れ
- 小・中学生向けチラシ
- 参考資料Ⅰ
- 参考資料Ⅲ
- 参考資料Ⅳ

以上をもとに、この資料を作成しました

この資料に関する問い合わせ先

担当

新潟県バレーボール協会

川辺 和彦

[kazuhiko01-kawabe@city-niigata.ed.jp](mailto:kazuhiko01-kawabe@city-niigata.ed.jp)